

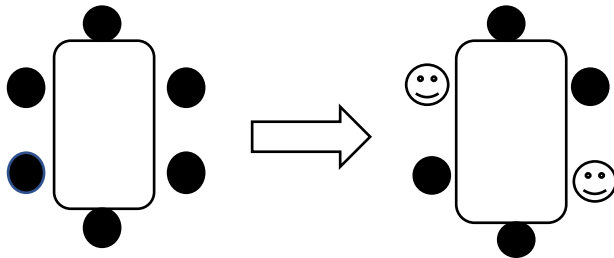
指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・ <u>通常の学級</u> ・その他		
校 種	<u>小学校</u> ・中学校	学 年	<u>1・2・3・4・5・6</u> 年
指導場面	<u>授業</u> ・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・ <u>難聴</u> ・ <u>知的障害</u> ・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・ <u>情緒障害</u> ・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	図書室での学習場面、図書室を利用する時		
タイトル	友達と距離をあけて読書をしよう！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	1台の机に6人座れるところを隣の人との距離をとるために4人にした。しかし、椅子を抜くだけでは、前の子と対面してしまったり、距離が近すぎてしまったりと、自分では十分な距離が分からない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	隣の人、前の人との距離を空ける。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	椅子を抜いた所に、画用紙で作った動物の飾りをつけることで、距離をとることができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ 1台の机に6脚の椅子を置いていたところを、1台の机に4脚の椅子を置くことにした。



- ・ 座ってはいけないところには、画用紙で動物の飾りを作り、「この席はあけておいてね」と書き、言葉でもわかるようにした。※写真1
- ・ 動物の飾りは、動物が本を読んでいるようなものにして、一緒に読書を楽しめるようなものにした。※写真2
- ・ 地べたに座る席には色ガムテープで枠を作り、座る場所をわかりやすくした。



写真 1



写真 2



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	マジックで楽しくつかもうソーシャルディスタンス		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	相手と適当な距離を意識してとることが難しい。 じっと座って話を聞き続けることが難しい。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	最後まで意欲的に活動に取り組める。 およそ1mまたは2mを体で覚える		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	新聞紙で作った伸びる棒により、相手との適当な距離をつかむことができる。活動が楽しいので、記憶に残りやすい。家庭でもできる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・教師が新聞紙で伸びる棒を作成し、マジックとして児童に見せる。
- ・児童は、伸びる棒の作り方を考える。
- ・児童に作り方を教える。
- ・作成した伸びる棒を使って、およそ1mまたは2mを確認する。
- ・伸びる棒を使わずに児童同士で適当な距離をとって立ち、およそ1mまたは2mをのびる棒で確認する。

《伸びる棒の作り方》

※参考【保育deマジック】〈タネあかしと解説〉新聞紙がするする伸びて！？



①新聞紙を横に切ったものを3枚用意する。



②のりで3枚を横につなげる。



③新聞紙を筒状にする。



④新聞紙に切り込みを入れる。



⑤切り込みを入れた部分を折る。



⑥内側の折った部分を引っ張ると伸びる。

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学級活動		
タイトル	キープディスタンスで 朝の会		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	活動中にどうしても児童間の距離が小さくなり、近寄ってしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	朝の会など何人かで集まる時には、印のところに座って友達との距離をとる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	どれだけ離れたらよいか適切な距離が体感できる。 印を確認することで、離れた距離を保つ事ができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

本校特別支援学級では毎日1時間程度、数人の児童が集まって、教室での朝の会や体育でのリズム運動に取り組んでいる。分散登校から通常登校になり、集まる児童の人数は以前より少し増えてきている。そこで、教室でする朝の会では、感染防止の観点から集まり方において対策が必要と考えた。

- ①朝の会は、教室に体操座りをすることから、各児童の座るところに目印をつけた。
目印は、児童が1メートルずつ離れて座れるように前後左右1メートル間隔に貼っている。また目印は、幅広テープを用いて上に番号を書くようにし、自分がどこに座ったらよいかわかりやすくした。(今はその教室に来た順に1から座ることとし、情緒障害など特性を持っている児童も番号があると納得し、わかりやすいようである。)
- ③朝の会で話を聞いたり、簡単なゲームをしたりするうちに児童の座り位置が目印からずれてしまうこともあるが、指導者の声かけで確認して離れることができる。
- ④継続してこの取り組みをすることで、児童間でどれだけ離れるのがよいのか実感し、少しずつ体得できるようにと考えている。